

# 酒米の最高峰「山田錦」の生産安定を支援！

## ■ 田野々地区、酒造好適米「山田錦」生産者 ■

(西讃農業改良普及センター 宮崎 勝、○山田浩三、嶋田真耶)

### ●対象の概要

観音寺市大野原町田野々地区では、地元で古くから酒造りに携わる酒造会社『川鶴酒造株式会社』が、同地区の土地柄（土地よし・水よし・人柄よし）に惚れ込み、平成10年から本格的に酒米の最高峰である「山田錦」を栽培している。同地区は標高が高い（標高200m）ことから、「おいしいお米」ができる立地条件などが揃っており、こだわりとプライドを持って酒米づくりに取り組む生産者とともに、JA香川県と普及センターがバックアップしながら、山里での酒米づくりを盛り立てている。



「豊稔池」の奥に広がる田野々地区と「山田錦」

### ●課題を取り上げた理由

酒造りに最も適した品種の「山田錦」は、稈長が110cmと長いことから、倒伏しやすく、いもち病などの病気にも弱く、大変手間のかかる品種で栽培面での支援が不可欠であった。

そこで、生産者の“適正な栽培管理の自立”を求めながらも、重要なポイントでは適宜、現地巡回、情報提供などを行う必要があった。

### ●普及活動の経過

#### 1 健苗育成支援

「苗半作」と言われるため、委託先のJA香川県豊南育苗センターでの播種に立会し、播種量の確認や緑化苗引渡し時には、今後の育苗の注意点を指摘するとともに、「田植～初期管理」の栽培管理情報を提供した。

#### 2 生産者・実需ともに、ほ場を巡回

8月の穂肥診断では、草丈、葉色、幼穂長などを確認し、倒伏軽減対策を含む穂肥量を検討した。

10月の成熟期では、黄変率を調査し、刈取り適期を決定し、

乾燥・調製作業の段取りを支援した。

なお、その都度、栽培管理情報を作成し、適正な水管理や適期防除などを推進した。



穂肥診断（8月）

#### 表-1 主な活動実績

月.日	内容
6.3	播種支援（JA豊南育苗センター）
6.10	★栽培管理情報①（田植、初期管理）
7.12	現地巡回（田植3週間後頃） 巡回後、★栽培管理情報②を提供
8.9	穂肥診断現地検討会（幼穂長確認） ★栽培管理情報③を提供 ◆より良い実践シートのチェック
9.5	出穂期確認
10.4	成熟期調査（稈長、穂長、穂数ほか）
10.10	刈取り適期現地巡回（黄変率調査） ★栽培管理情報④を提供
11.1	倉前検査
11.8	品質調査（胴割粒、千粒重）
2.8	（株）川鶴酒造、酒蔵開き支援 産地紹介パネル・配布用チラシ作成
3.13	反省会

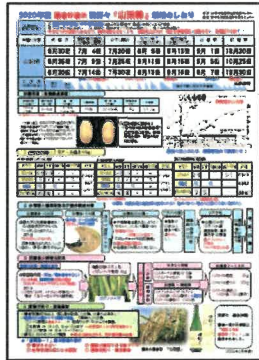
#### 3 実需の酒蔵開きで産地を「PR」

「消費者交流の場」として設置した田野々地区の農産物を販売するコーナーにおいて、「山田錦」の産地を紹介するパネルを作成・掲示するとともに、そのパネルを「PR用のチラシ」として消費者が手に取れるようにした。

#### 4 実需を交えた反省会（3月）の開催

実需からの日本酒を取り巻く情勢の報告の後、普及センターからは、元年産の生育・品質概要、特に、収穫籾と倉前検査サンプルの胴割粒調査で、やや高い数値が出ていることから、収穫直前まで黒湿り状態を保つ水管理、適期刈取りや適正な乾燥・調製の重要性を再確認した。

また、GAP関係では、8月に各生産者に記入いただいた「より良い農業生産の実践シート」の結果説明と更なる意識の醸成を図った。

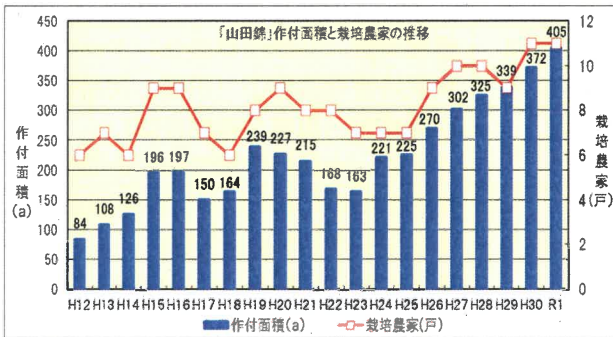


田野々独自のしおり

### ●普及活動の成果

#### 1 栽培農家の増加で作付面積も拡大！

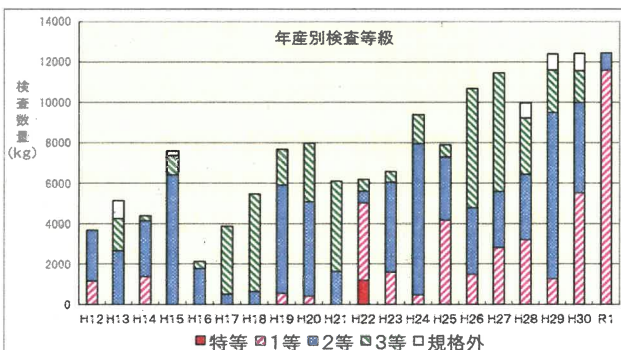
関係機関と連携した地道な活動とここ数年の「日本酒ブーム」による実需からの「地元産の酒米」増産に応えるべく、作付面積は徐々に増加し、現在11名が405aを栽培している。



図一 作付面積と栽培農家の推移

#### 2 「過去最高！」の1等米比率

酒米の良し悪しを決める「心白」は主食用米と同様に、昼夜の温度差（10℃以上）が大きいほど“入りやすい”と言われている。



図二 年産別検査等級

令和元年産は登熟期、特に9月は15日間がそれに該当するなど好条件に恵まれ、また、平均の千粒重も27gを超えて粒張りも充実しており、倉前検査では非常に高い1等米比率となった。

#### 3 「観音寺ブランド」の認証取得！

2月5日、地元の農林水産物とその加工品をブランド化して広く情報発信する「観音寺ブランド」に「田野々 純米吟醸」が認証された。

### ●今後の普及活動の課題

#### 1 面積と高品質を維持しつつ単収アップを！

農家所得の向上には、①1等米比率の向上、②単収の向上、③面積拡大などが考えられるが、面積拡大は、高齢化と担い手不足のため、厳しい状況である。単収向上では、令和元年産の単収が320kg/10aと直近5か年間の平均単収350kg/10aに比べ30kgも低くなっている（香川県の作況指数は「95」の「不良」）。

今後も土づくりや適正な水管理など、「基本技術の励行」による高品質・安定生産を支援する。



図三 年産別平均単収



**田野々 純米吟醸は…**  
 「農の匠」が育てた米を、いにしえより受け継がれた技で「蔵人」が仕込んだ産地一貫造りの逸品です。是非、ご賞味ください！